



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

# スマイル<sup>2</sup>ふぞく



第9号 令和5年1月27日（金） 校長 古野 祐一

## 今年、目指すのは「躍」！

1月10日（火）の2学期後期開始式で、今年、皆で目指したい姿を、漢字一文字に込めて子どもたちに紹介しました。それがこの「躍」という文字です。「やく」と読んだり「おどる」と読んだりする漢字です。スマイル附属が「飛躍」する1年にしたいという思いからです。また、今年は「うさぎ年」ですので、ウサギが飛び跳ねることから飛躍する年になるとも言われています。「飛躍」には、「大きく発展して活躍する」という意味があります。北斗の子、保護者の皆様、教職員一同で力を合わせ、昨年以上に更に大きく発展する1年にしたいと願っています。そこで、子どもたちに期待することを二つ話しました。

- 一つ目は、一人一人が「自分の取り柄を發揮して活躍」できる場を見つけること。
- 二つ目は、「友達が活躍」するために、自分にできることを見つけてサポートすること。

具体的にどんなことに取り組んでいくのか、お子様と一緒に今年の目標を話し合ってみてはいかがでしょうか。今年も一人一人が活躍する、スマイル附属を皆で創っていきましょう！

## 次年度入学から児童定員数を変更！

5年・10年と先を見据え、一人一人が今以上に活躍する学校となるために、大きな変更をしました。附属幼稚園から連絡入学する定員が32名と減少したことや少子化等も鑑み、次年度から入学児童定員数を少なくし、各学級を「30人から26人」とします。複式学級は「8人から6人」です。個々へのきめ細やかな指導が行き渡り、個の可能性を開花させる教育の充実や、長崎県の複式学級の現場に即した人数で教育実習を行う等の理由で、全国・県の学級の平均人数等も参考にして定員を設定しました。今後も現状を見極め、今と未来に効果のある取組への改善を続けていきます。



新年の目標を考え、話し合う1年生。



新年の目標を考え、話し合う3年生。



新年の目標を考え、話し合う6年生。



170を超える応募があったキャラクター。

※裏面に続きます！

## 笑顔の支え

学びの集大成である研究発表会を1週間後に控え、この時期に大切にしていることを職員に聞いてみました。

「とにかく褒めます。学びで鍛えることは12月までで終わっています。」

「遊びを大切にします。どの学級より楽しい遊びを目指しています。」

「目に見えないものを大切にすることで、子どもたちの安定を図っています。」

「子どもが学校にいる時は、常に子どもと一緒にいます。子どもとの時間を大切にしています。」

どの意見も、一見研究には関係ないように思えます。しかし、このような取組がこの時期大切なのです。

## いつも通り

四人の職員がなぜこのようなことを大切にしているか、それは、「授業は子どもと共に創り上げるもの」と知っているからです。そして、子どもにとっての研究発表会の授業は、特別なものではなく、日々の授業の延長であることも理解しているからです。だからこそ、子どもとの時間を何よりも大切にする、いつも通りで過ごすのです。このように、明文化されていなくとも、大切にされていること、経験から学ぶことが附属小学校にはあります。

3年ぶりの対面式での全学級授業公開。初めて研究発表会に臨む職員に、何が大切かを姿で示す職員の姿が嬉しくもあります。

教頭 橋田 晶拓

## 北斗の学び

### 勝負強い北斗の子の学び

2月3日に教育研究発表会が行われます。3年ぶりの対面型授業、4年ぶりの全学級授業です。これまで研究発表会で子どもたちの学ぶ姿を見てきましたが、驚くことに、北斗の子は、緊張する素振りもなく、いつもどおりの力を発揮していました。北斗の子が持っているこのような勝負強さの秘訣は何なのでしょう。

調べてみると「メンタル」が大切なのだそうです。特に、興奮するときに優位になる「交感神経」と落ち着くために働く「副交感神経」のバランスが重要だと言われています。

確かに、北斗の子の学びでは、魅力的な対象や経験、知識とのズレに出会うことで、知的好奇心が高まり、興奮している子どもの姿が見られます。その後、落ち着いて自分の考えをまとめます。自分の考えを主張したり、友達の考えを聞いたりして学びを深めていく時には、盛り上がり最高潮に達しています。そして自分自身の学びを省察し、次の学びにつなげていきます。こうして考えると、北斗の子の学びそのものが、どのような状況でも、自分の力を発揮できるような構成になっているのです。そのような学びを繰り返すことで、北斗の子は勝負強くなっていると言えるでしょう。

勝負強さを育ててきた北斗の子と、それを実現する北斗の教師の学びを全国の先生方に見ていただくことが楽しみです。

主幹教諭 吉田 公悦

## 潜入！附属小リアルスコープ

### 無事故にこそ価値あり

今週水曜日は、今年度2度目の大雪による臨時休校となりました。前週から「10年に1度の大寒波」という情報はありましたが、天気予報に雪マークが付いたのは割と直前になってからでした。

ご存じの通り、本校は校区が非常に広い学校です。非常変災に対してどのような措置をとるかにについては、文教町周辺だけでなく、広範囲の気象情報や交通状況を含めて判断する必要があります。また、同時に、附属4校園（附属中学校・附属幼稚園・附属特別支援学校）との情報共有や、長崎市内・時津町・長与町の学校の判断についての情報収集も欠かせません。

教育活動のことを考えると、休校措置はできるだけ避けたいところですが、御家庭の御都合や当日の給食の有無もありますので、できるだけ早い決定を目指しています。

冬の積雪以外にも、台風や大雨などの非常変災の度に、数々の情報を基に同じような判断を行っています。時には、蓋を開けてみると「結局大したことはなかった」ということもあります。何より“無事故であることの価値”を大切にしながら、今後も学校として適切な判断を心掛け、子どもたちの安全を守って参ります。

教務主任 才木 崇史